

ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を  
目指した研究

研究代表者 八橋 弘 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 院長

研究要旨

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等においての啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

**1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）**

肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開した。2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした。B型肝炎の感染性に関する内容についての検索が多く見られた。

**2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウム**

偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムは、2022年3月に東京で、8月に名古屋市で、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

**3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者アンケート調査**

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者調査を実施した。研究協力いただいた調査施設数 41 施設である。

2021年6月7日から2022年4月23日までの期間に5440名の肝疾患患者にアンケート用紙を配布して、うち2994名（54.1%）から回収できた。以下、この期間の調査を（2021年調査）と定義した。2012年2月1日から7月31日までの期間に同様の設問で実施した調査結果を（2012年調査）と定義して、両群の頻度の違いも比較検討した。

「肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度は、2012年調査では16.4%、2021年調査では17.3%と変化がみられなかったが、C型肝炎患者では14.2%から11.1%と有意に減少していた。

悩みとストレスの頻度は、2012年調査では50.5%、2021年調査では33.7%と明らかに減少し、特にC型肝炎患者では50.9%から26.2%へと半減していた。

その理由としては、C型肝炎患者のSVR率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。C型肝炎に対するDAA治療の普及により、高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。

#### 4. 動画の作成

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場において B 型肝炎の感染性や感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適切な対処法を指導する内容の 3 分 12 秒の動画を作成し、Youtube 上に公開した。

##### 研究分担者

四柳 宏 東京大学医科学研究所・  
先端医療研究センター感  
染症分野・教授  
磯田 広史 佐賀大学医学部附属病  
院・肝疾患センター・副セ  
ンター長  
是永 匡紹 国立国際医療研究センタ  
ー・免疫研究センター・肝  
炎情報センター・肝疾患  
研修室長  
米澤 敦子 東京肝臓友の会・事務局  
長  
中島 康之 東京肝臓友の会／全国B

型肝炎訴訟大阪弁護団・  
恒久対策班事務局長

梁井 朱美 東京肝臓友の会／全国B  
型肝炎訴訟九州原告団

及川 綾子 東京肝臓友の会／薬害肝  
炎全国原告団・薬害肝炎  
東京原告団代表

浅井 文和 日本医学ジャーナリスト  
協会・会長

##### 研究協力者

山崎 一美 独立行政法人国立病院機  
構長崎医療センター 肝  
臓内科、臨床研究センタ  
ー

#### A. 研究目的

##### A-1. 研究の背景

肝炎対策基本法に基づき、「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」が策定された。その指針には、肝炎ウイルスの感染者および肝炎患者に対する不当な差別が存在することが指摘されている。平成 23 年度から 3 年間、龍岡資晃元学習院教授による「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班が組織され研究が実施された。また、平成 28 年には指針の改定が行われ、肝炎患者等に対する不当な差別や、それに伴う肝炎患者等の精神的な負担が生じることのないよう、正しい知識を身に付け、適切な対応に努めること、などが明記された。

平成 29 年度から 3 年間は、「肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効

果的な手法の確立に関する研究」班（研究代表者：八橋 弘）が組織され下記の内容の研究が実施された。①肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害の実態を明らかにした。②看護学生、医学部学生及び病院職員を対象としたウイルス肝炎の感染経路及びウイルス肝炎の感染性についての理解度に関する調査をおこなった。③肝炎患者への偏見差別を考える公開シンポジウムを福岡、札幌、大阪、東京、那覇、広島、仙台、佐賀、東京で開催した。肝炎ウイルス感染者の偏見差別に関する座談会集を作成した。

今までの政策研究で実施された肝炎患者に対する偏見や差別に関する調査によって、その実態は明らかになった、それらをどのように伝え、偏見や差別を解消するための方策につなげていくかについては十分な検討がなされていない。

## A-2. 研究目的

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

## B. 研究方法

本研究班では、主に下記の4点について

### B-1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を

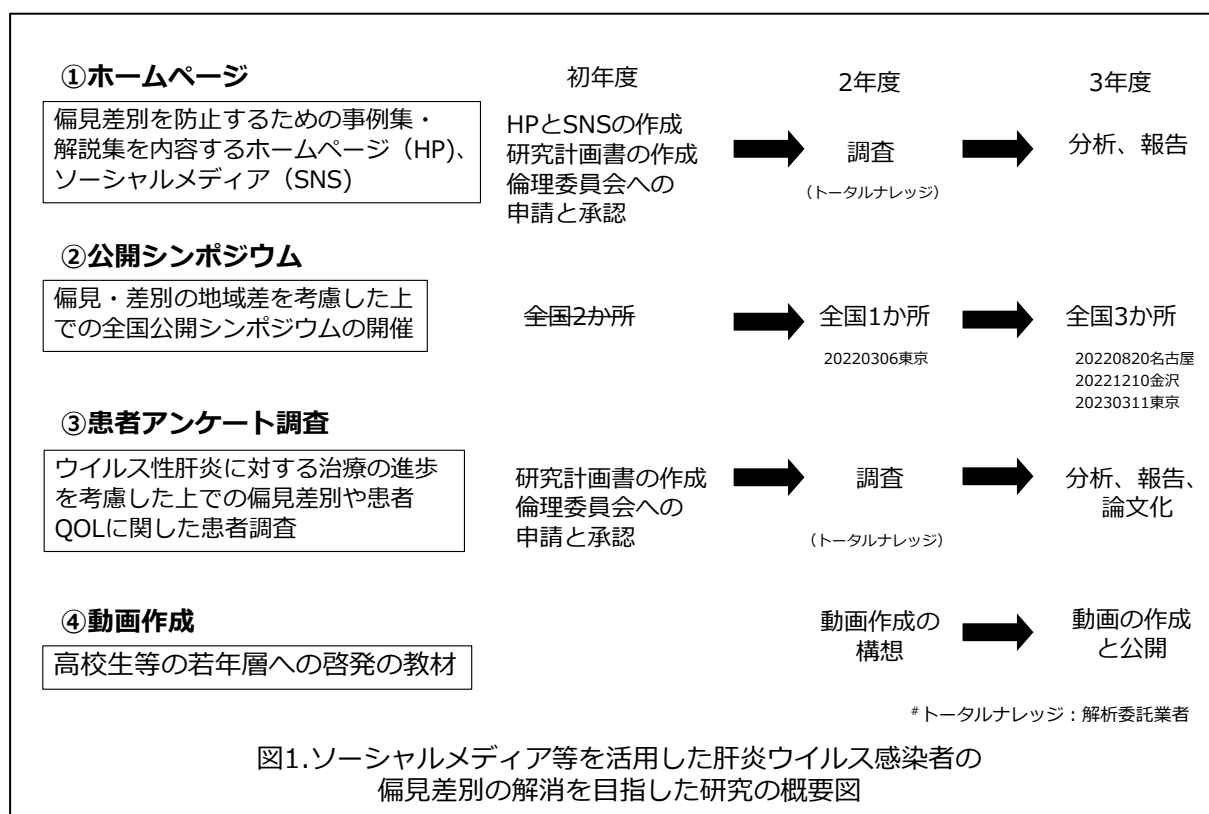
防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開する。

### B-2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムを開催する。

### B-3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査をおこなう。

### B-4. 高校生等の若年層への啓発の教材として動画を作成し、Youtube上に公開した（図1）。

（概要図）



## C. 研究結果と考察

### C-1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）の作成

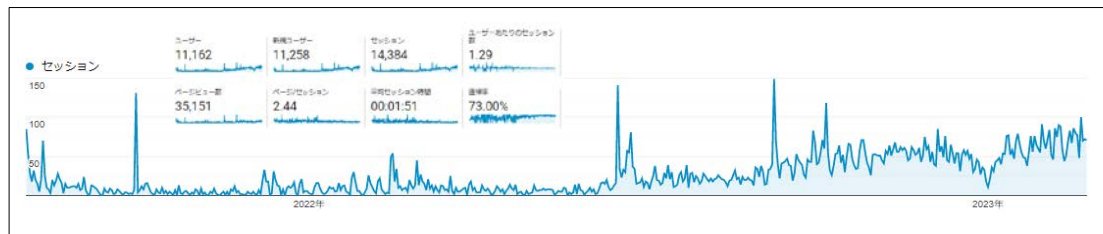
肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開した（図2）。HPに

は、研究班の紹介、偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介、ウイルス肝炎の感染経路や感染確率についての理解度を自己学習するプログラム、交流広場、様々な情報提供する場、などを作り込んだ。2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした（図3）。



図2.肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ

全期間（2021年8月2日～2023年2月23日）



Googleによる検索

2021年10月8日～2023年2月8日（過去16か月間）



上位のクエリ10件 (クリック数の降順)	クリック数	表示回数	掲載順位
B型肝炎キャリアの人と付き合う	323	3894	2.97
B型肝炎 風呂で感染	171	5002	2.85
C型肝炎 介護 入浴	150	922	2.89
B型肝炎 介護 入浴	87	379	2.60
B型肝炎 看護師になれない	76	441	2.71
B型肝炎 うつる 介護	75	718	4.48
感染の3要素	70	903	3.59
B型肝炎 入浴 順番	68	1113	5.13
B型肝炎 歯医者 申告	67	561	4.90
感染成立の3要素	50	1190	6.21

図3.ホームページへのアクセス状況

## C-2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムの開催

公開シンポジウムを令和3年度は、2022年3月に東京で、令和4年度は、8月に名古屋市で、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した(図4)。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏

見差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。なお、これらの公開シンポジウムと公開模擬授業参加者は、通常の健康管理対策や感染対策に加えて、事前に唾液検体を用いたコロナ診断の定性キットでコロナ陰性を確認して参加された。



図4.公開シンポジウムと公開模擬授業

## C-3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者アンケート調査

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者調査を実施した。研究協力いただいた調査施設数 41 施設である。2021 年 6 月 7 日から 2022 年 4 月 23 日までの期間に 5440 名の肝疾患患者にアンケート用紙を配布して、うち 2994 名(54.1%)から回収できた。以下、この期間の調査を(2021 年調査)と定義した。2012 年 2 月 1 日から 7 月 31 日までの期間に同様の設問で実施した調査結

果を(2012 年調査)と定義して、両群の頻度の違いも比較検討した(図5)。

「肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度は、2012 年調査では 16.4%、2021 年調査では 17.3%と変化がみられなかったが、C 型肝炎患者では 14.2%から 11.1%と有意に減少していた(図6)。

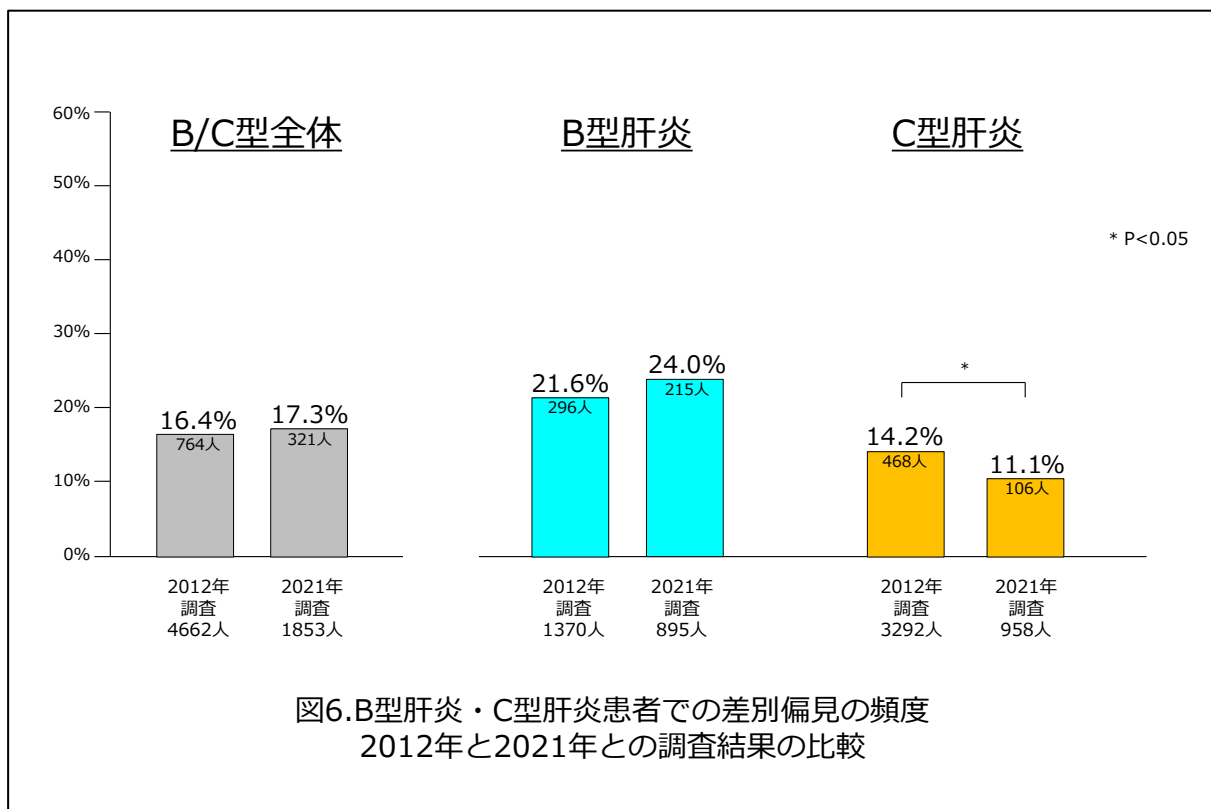
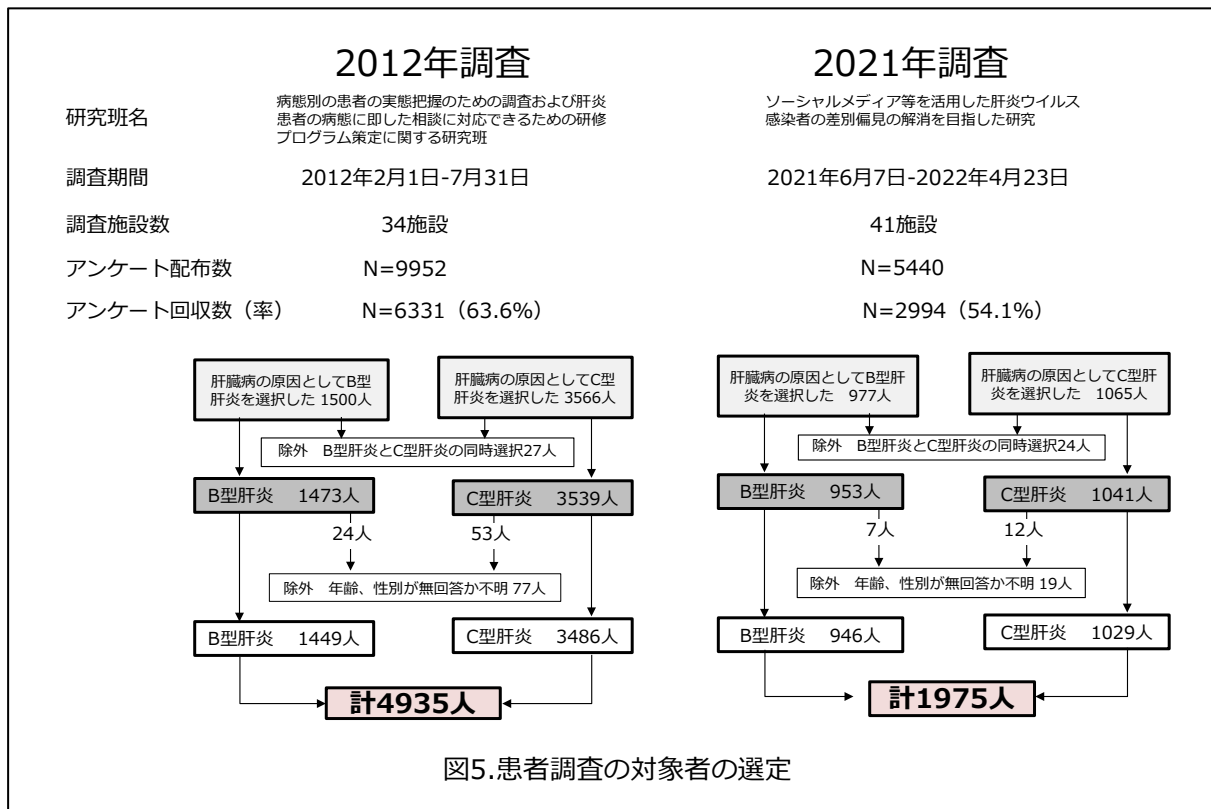
悩みとストレスの頻度は、2012 年調査では 50.5%、2021 年調査では 33.7%と明らかに減少し、特に C 型肝炎患者では 50.9%から 26.2%へと半減していた(図7)。

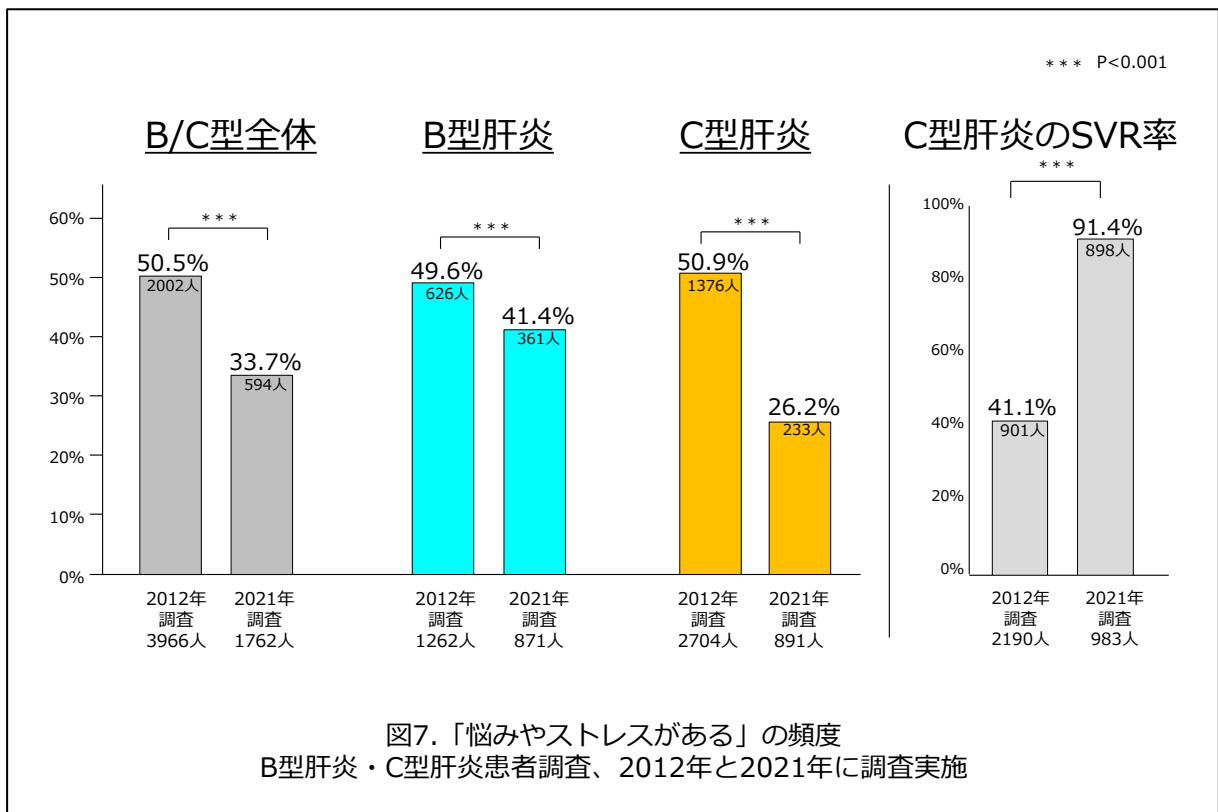
その理由としては、C 型肝炎患者の SVR

率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる(図7)。

C型肝炎に対するDAA治療の普及により、

高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。





#### C-4. 動画の作成

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場において B 型肝炎の感染性や感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適

切な対処法を指導する内容の3分12秒の動画を作成し、Youtube 上に公開した (図 8、図 9)。



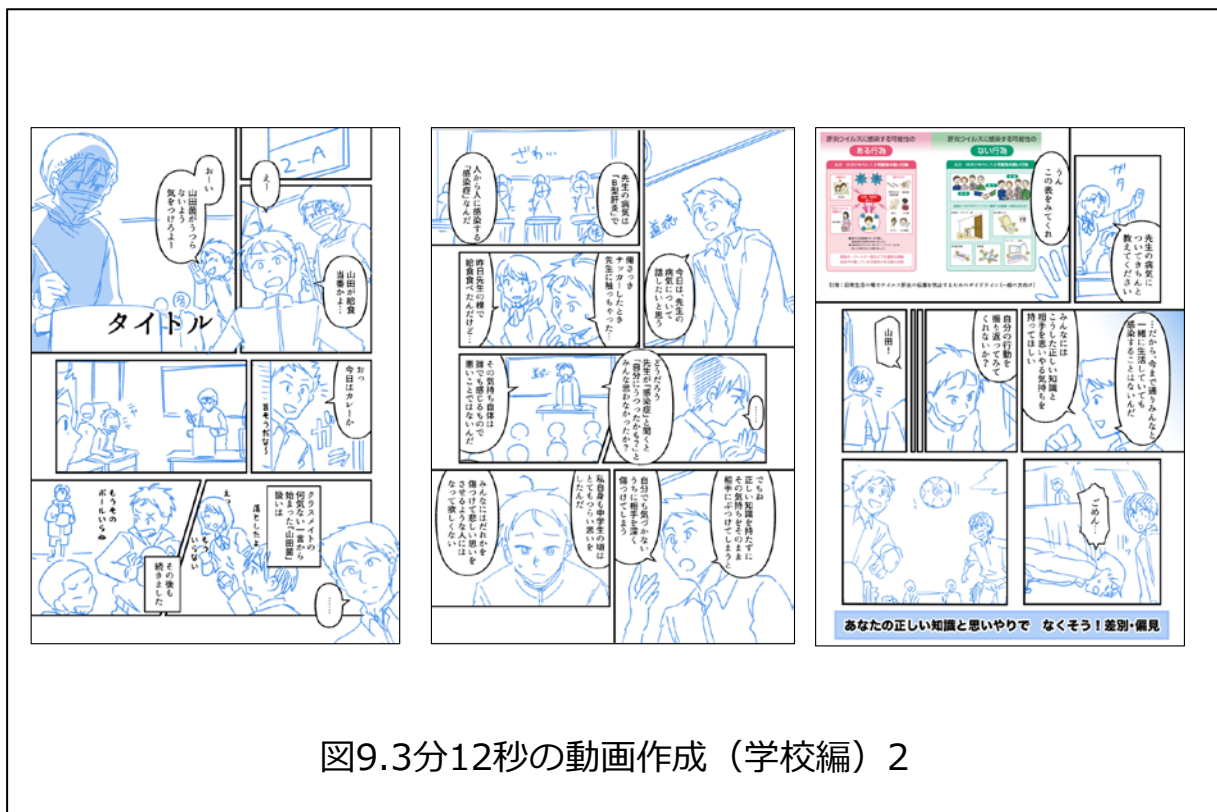


図9.3分12秒の動画作成（学校編）2

#### D. 結論

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わる機会が多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

##### 1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）

肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開した。2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした。B型肝炎の感染性に関する内容についての検索が多く見られた。

##### 2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウム

偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムは、2022年3月に東京で、8

月に名古屋市で、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

##### 3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者アンケート調査

ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査を実施した。研究協力いただいた調査施設数41施設である。

2021年6月7日から2022年4月23日までの期間に5440名の肝疾患患者にアンケート用紙を配布して、うち2994名（54.1%）から回収できた。以下、この期間の調査を（2021年調査）と定義した。2012年2月1日から7月31日までの期間に同様の設問で実施した調査結果を（2012年調査）と定義して、両群の頻度の違いも比較検



討した。

「肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度は、2012年調査では16.4%、2021年調査では17.3%と変化がみられなかったが、C型肝炎患者では14.2%から11.1%と有意に減少していた。

悩みとストレスの頻度は、2012年調査では50.5%、2021年調査では33.7%と明らかに減少し、特にC型肝炎患者では50.9%から26.2%へと半減していた。

その理由としては、C型肝炎患者のSVR率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。C型肝炎に対するDAA治療の普及により、高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。

#### 4. 動画の作成

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場においてB型肝炎の感染性や

感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適切な対処法を指導する内容の3分12秒の動画を作成し、Youtube上に公開した。

#### E. 健康危険情報

なし。

#### F. 研究発表

1. 論文発表なし
2. 学会発表

2022年3月18日の肝炎対策推進協議会で、本研究班の活動報告をおこなった。

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。